第8回ITS推進フォーラム

ITS GREEN SAFETY の成果

ITS世界会議東京2013

ITS GREEN SAFETY

2013年11月26日

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE事務局
ITS Japan企画グループ
内村　孝彦

報告内容

- ITS GREEN SAFETY とは
- ITS GREEN SAFETY プロジェクトの狙い
- ITS GREEN SAFETY SHOWCASEとして実施してきたこと
  - 準備活動
  - 広報活動
  - メディアデー
  - SHOWCASE
  - セッション
  - 特別企画
- 結果評価
- まとめ

ITS GREEN SAFETYとは

■ **意義**
- 日本の官民が協力し、協調システムで交通問題解決等に取り組む活動の総称として命名し、国内外に実体を伴う活動であることをアピールできることを意図する

■ **キャッチフレーズ** :
- 日本語 :世界一グリーンで安全な道路交通社会の実現
- 英　語 :For a Greener & Safer Traffic Society

■ **ロゴマーク**
- ITS Safety 2010を継承

■ **ITS GREEN SAFETY SHOWCASE**
- 成果の世界への発信

ITS GREEN SAFETY

◆ 略称
- ITSGS : ITS GREEN SAFETY
- GS : GREEN SAFETY（ITSの表記が不要な際の超短縮名）
- ITSGSC : ITS GREEN SAFETY SHOWCASE CONSORTIUM
- ITSGSS : ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

ITS GREEN SAFETY プロジェクトの狙い

1. **官民が共通した目標を設定して解決に取り組むこと**
   - 官民プロジェクトの設置
   - 目標の設定と目標に対する達成度を評価

2. **関係者が協力して活動を推進**
   - ITS推進協議会メンバーが活動に参画
   - 関係団体の支援を得る

3. **成果を周知すること**
   - 国内外の専門家
   - 国内の利用者

4. **実用化を推進し、社会に貢献すること**
   - 取り組んだサービスの価値が明確である
   - 利用者の支持が得られる

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE実施内容

- 関係組織により実行体制を構築
- 各主体で取り組み課題、目標を設定
- 推進組織への企画提案、承認
- 共催、支援依頼活動
- 実証実験、SHOWCASEの実施
- 周知活動の実施
- 成果の評価、振り返り

ITS GREEN SAFETY SHOWCASEの構成

■ 下記インフラ協調型5プロジェクトを総称して、ITS GREEN SAFETY SHOWCASEとして実施

	公式名称	実施主体
GS1	次世代DSSS（I2V） Next generation DSSS (I2V)	➢ 警察庁 ➢ 警視庁 ➢ UTMS協会 ➢ UTMS協会会員会社
GS2	通信利用型先進安全自動車　(V2V, V2P) Cooperative Advanced Safety Vehicles (V2V , V2P)	➢ 国土交通省自動車局 ➢ ASV推進検討会(ASV5デモ対応タスクフォース) ASVメンバー会社等(16社)
GS3	ITSスポットサービス (I2V) ITS Spot Services (I2V)	➢ 国土交通省道路局 ➢ 国土技術政策総合研究所 ➢ 道路新産業開発機構 ➢ 首都高速道路株式会社 ➢ 「ITSスポットショーケース」プロジェクトチーム
GS4	高速道路サグ部の交通円滑化サービス (I2V, V2V) Smartway with ACC/CACC (I2V, V2V)	➢ 国土交通省道路局 ➢ 国土技術政策総合研究所 ➢ 道路新産業開発機構 ➢ スマート交通流制御研究会(カーメーカー5社)
GS5	モバイル通信とITSスポットの協調サービス (I2V) Mobile and ITS Spot Cooperative Services　(I2V)	➢ 国土技術政策総合研究所 ➢ 道路新産業開発機構 ➢ 東日本高速道路株式会社 ➢ 中日本高速道路株式会社 ➢ 首都高速道路株式会社 ➢ 次世代の協調ITSに関する共同研究メンバー会社（2社）

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE概要

日本の官民が連携して推進する世界最先端の“協調型ITSサービス”体験ショーケース

次世代 DSSS（I2V）

センサ情報を用いた交差点での安全運転支援と
信号情報を活用したスムーズな交差点通過支援

ITS GREEN SAFETY

世界一グリーンで安全な
道路交通社会の実現

通信利用型先進安全自動車（V2V,V2P）

車車間、歩車間通信技術を活用した
安全運転支援システムを実現

高速道路サグ部の交通円滑化サービス（I2V,V2V）

ITS スポットと ACC/CACC を用いて
高速道路サグ渋滞の緩和

ITSスポットサービス（I2V）

安全、快適な運転を支援する世界初の
協調 ITS を実現

モバイル通信とITSスポットの協調サービス（I2V）

新しい交通情報サービスによる安全で快適な
都市交通を提供

目標と成果評価

■ 目標：各チームで個別に設定

- 技術・サービスを理解してもらう
- 実用化に向けた意見、要望を得る

■ 評価

- アンケート、メディア評価により、成果を評価する

■ 目標達成に向けたアクション

- 説明資料の作成、発信
- メディアを招いた試乗・説明会の実施
- 一般招待者への試乗、説明会の実施
- ショーケースブースで詳細を説明
- 試乗者から詳細なアンケート回収
- 関連セッション設定により、専門家間で議論

運営体制

ITS推進協議会
内閣官房、内閣府、警察庁、総務省、経済産業省、国土交通省、ITS推進協議会参加会社
日本経済団体連合会、ITS Japan

ITS GREEN SAFETY
SHOWCASE実施統括
◆ 全体の企画、運営
責任者：森(ICSC委員長：トヨタ)
副責任者：福島(ICSC 日産)
事務局：内村（ITS Japan企画G）

全体統括
日本組織委員会
ショーケース担当：都築

運営担当/運営事務局
外注 （株)コングレ

広報
◆訴求資料作成、VIP、マスコミ対応
責任者：川合(ICSC デンソー)
（ITS Japan広報グループ）

デモ試乗統括
◆ITS GREEN SAFETY SHOWCASEの統括
責任者：井上(ICSC ホンダ)

予算管理
責任者：内村(ITS Japan企画グループ)
（経理：ITS Japan　総務グループ）

併設セッション企画運営
◆ITS GREEN SAFETY　セッションの企画運営
責任者：瀬川(ICSC マツダ)
副責任者：片原(ICSC富士通)

運営事務局　コングレ
◆SHOWCASEの運営、展示物制作
責任者：大椛、愛屋(コングレ)

GS 1
リーダー：井上(ホンダ)
副リーダー：金須(日産)

GS 2
リーダー：衣本(自動車局)
副リーダー：向山(トヨタ)

GS 3
リーダー：西川(道路局)
副リーダー：柴崎（パイオニア）

GS 4
リーダー：金澤(国総研)
副リーダー：北濱(トヨタ)

GS 5
リーダー：金澤(国総研)
副リーダー：高橋(エリクソン)

活動日程

	2012年度 7-9	10-12	1-3	2013年度 4-6	7-9	10-12
イベント		☆10/22-26 WC Vienna		☆5/13-16 US ミシガン大学 ☆6/4-7 EU 会議	☆9/26 UTMSセミナー	世界会議 東京☆ 10/14−18 ☆10/4-7 CEATEC ☆11/20-12/1 TMS
ITS推進協議会	☆#3 7/2		☆#4 3/28		☆#5 9/25	
ITS Japan会議				☆ 4/16 常任理事会 ☆ 6/12 総会		
ITS GREEN SAFETY SHOWCASE 全体会議	☆#1 6/14 ☆#2 7/19 ☆#3 8/30 ☆#4 9/26	☆#5 11/16	☆#6 1/8 ☆#7 2/14 ☆#8 3/21	☆#9 4/16 ☆#10 5/30	☆#11 7/11 ☆#12 8/29 ☆#13 9/20	
デモ 実行部隊	企画/開発/設計/製作		デモ準備/配備	単体テスト	総合テスト リハーサル	取材対応 ☆ 11/6 まとめ 反省会
広報	発信内容検討/準備	☆#1 11/15 ☆#2 11/26	☆#3 2/8 ☆#4 3/8 ☆#5 3/18	☆#6 4/11 ☆#7 5/22 ☆#8 6/21	☆#9 7/3 ☆#10 7/31 ☆#11 9/3 ☆#12 9/10 ☆ 8/6 ☆ 8/30 ☆ 9/17 ☆ 8/22 ☆ 9/6 ☆ 9/27 メディア説明会9/27☆	
併設 セッション		☆#1 11/16	1/11 2件 エントリ済	セッション決定 HS 18 SIS22	発表者選定/準備	

支援依頼活動 → 支援組織との諸処理

運営会社参画

ITS世界会議東京2013開催週近辺活動概要

- 事前説明会を実施し、メディアを積極的に招待
- 事前リハーサルを活用した広報活動実施
- セッションでの専門家間議論も実施

	9/27（金）	10/7（月）	10/8（火）	10/9（水）	10/10（木）	10/11（金）	10/12（土）	10/13（日）	10/14（月）祝	10/15（火）	10/16（水）	10/17（木）	10/18（金）
AM 9:00～12:30		GS3 有明ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ		GS1 船の科学館	GS2	GS2 / GS4	休日	休日	準備/全体リハーサル	ｼｮｰｹｰｽ開始 11:00～	台風により試乗中止		GS3 特別企画 9:00～13:00 メディア取材
PM 14:00～17:30	メディア説明会	GS3: 有明ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ		GS1 船の科学館	GS2	GS2 / GS4	休日 / GS5	休日	GS 自主企画 招待 ﾒﾃﾞｨﾃﾞｰ	GS1 WBS 取材 / 台風により試乗中止	セッション SIS22 14:00～17:20 / HS9 14:00～15:30	HS18 16:00～17:30	無
備考		個別リハーサル								組織委員会主催 メディアデー		GS3のみ一般公開へ対応	
組織委員会企画							展示場工事	展示場工事	ITS世界会議東京2013 展示場搬入 開会式 16時～ @東京国際フォーラム	ｼｮｰｹｰｽ/展示場開場式典 組織委員会ﾒﾃﾞｨｱﾃﾞｰ		一般公開日	閉会式 15～16時以降撤収

メディア取材対応

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

広報活動

ITS GREEN SAFETY

広報活動の進め方

【想定】 待っていたら、記事化は期待できない

【対応】 記事化を狙う積極的広報活動が必要

1. メディアへの取材要請活動

- **一般紙、専門雑誌、テレビニュース、ウェブ等**
  - ジャーナリストの協力を得る
    - ✓ 清水和夫氏、飯田裕子氏
  - **「メディア説明会」**により、取材メディアを確保
    - ✓ 9月27日にITS GREEN SAFETY 説明会実施
- **テレビ番組**
  - 下記に絞り調整
    - ✓ ワールドビジネスサテライト （テレビ東京）
    - ✓ NHKニュース
    - ✓ クローズアップ現代 （NHK）

2. 自主取材活動

- 記録映像を作成し、事後各所でプロモーションを継続

9月27日　メディア向け説明会

1. 目的

- ITSGSを国内メディアに紹介
- ITSGS特別試乗会(10月14日)の試乗・取材の予約を確定
- 影響力の大きいメディアには、会議前週リハーサル期間の取材を設定

2. 期待するメディア

- 即効性のある映像訴求力をもつメディア
- 影響力の大きいメディア

3. 実施内容

- 進行:ITSGS ITS Japan事務局
- 対象:メディア24社27名参加
- 次第
  - ✓ ITSGS ショーケースの概要
  - ✓ ITSGS特別試乗会予約受付
  - ✓ Q&A

メディアへの説明

試乗予約受付・抽選会

10月10日メディア取材 （清水氏、飯田氏）

■ 10月10日 GS1 & GS2 合同リハーサル取材（船の科学館）

➢ 清水和夫氏、飯田裕子氏取材

次世代DSSS

ASV

燃料電池バス

➢ ITS GREEN SAFETY 撮影スタッフによる取材

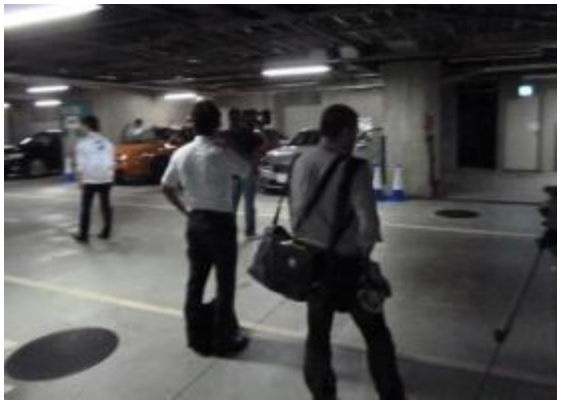
緊急車両役のJAF車両

10月11日メディア取材 （NHK）

■ 10月11日 GS2, GS4 のリハーサルの取材

➢ GS2はメディアイベントを開催

➢ GS4の取材：NHKはCACC車両に試乗
（東京ファッションタウンビルから発進）



10月14日メディアデー

■ 参加メディア数： 22媒体38名
- 説明会以降問い合わせ多数
- 予約キャンセルもなく、大盛況
- 試乗枠が少なかったのが残念

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

成果の評価：報道記事

ITS GREEN SAFETY

報道記事-1　概要

■ テレビ
- ニュース7（NHK）
- ワールドビジネスサテライト（テレビ東京）
- クローズアップ現代（NHK）
- TBSテレビ Nステ
- フジテレビ　スーパーニュース

■ Web
- ザ・モーター・ウィークリー（Webマガジン）
- オートモーティブニュース（Webマガジン）
- オートプローブ（Webマガジン）
- ITS最前線（清水和夫氏映像専門サイト）
  - ✓ ITSスポットとは?
  - ✓ ASVに乗った!
  - ✓ DSSSってなんだ?
  - ✓ つながるクルマの未来（白熱討論会収録ビデオ）
  - ✓ 連載中

■ 雑誌
- ベストカー　飯田裕子氏
- モーターマガジン　清水和夫氏

Start Your Engine　ITS最前線

報道記事-2

10月14日放送　NHK　ニュース7

報道記事-3

10月15日放送　テレビ東京　ワールドビジネスサテライト

http://www.tv-tokyo.co.jp/mv/wbs/newsl/post_52018/

ITS GREEN SAFETY

報道記事-4

ITS Japan

clicccar

FOCUS Midnight Sky Debut.

ホーム　ニュース・新車　エンタメ　車車・カスタム　アイテム　イベント　ドライブ　特集　DJ特集

おすすめ記事一覧

日本は安全技術で世界をリードできるのか？ ITS世界会議東京2013で実験車に試乗

2013/10/15 19:25 by 編集部 小林和久, テクノロジー, ニュース・新車, 環境・エコ, 試乗

ITS世界会議東京2013が開催されています。

ITSとは、その会議のWebサイトによると、

> ITS（Intelligent Transport Systems：高度道路交通システム）とは、人と道路と自動車の間で情報の受発信を行い、道路交通が抱える事故や渋滞、環境対策など、様々な課題を解決するためのシステムの総称です。
> 常に最先端の情報通信や制御技術を活用して、道路交通の最適化を図ると同時に、事故や渋滞の解消、省エネや環境との共存を図り、移動にやさしい豊かなモビリティ社会を実現する役割を担っています。

要するにクルマの交通を最適化させて円滑にして事故を減らし、省エネに貢献しようと言うものですね。

具体的なものではETCやカーナビの渋滞情報表示（VICS）などがその一例です。

電子技術を多用するため、日本が得意でありリードすべき分野だと思われます。

その世界会議に先立ち、現在実施に向けて研究中の技術の一部を搭載してデモンストレーションしていただきました。

●次世代DSSS ～路車間通信による安全運転支援システムの体験～

路車間とは、道路などのインフラと車両を繋ぐことで、すでにVICSのビーコンやETCなどもこうしたものの一つです。

将来的に考えられているのは、歩行者が横断歩道を横断しそうだ、脇道から車両が出てくるかもしれない、対向車に対向車の陰に隠れたバイクがいそうだ、この先に止まれの標識があるといったことを知らせてくれたり、信号機がつながるところでは、次の信号をそのまま青で通過するのに最適な走行速度域や赤信号で止まっている時間のカウントダウンなどを教えてくれます。

かなり普及してきているETC用アンテナと共用できるDSRC対応ETC&カーナビなどで実現可能です。これは道路を管理する業界も大きく関与しており、「事故件数の多い交差点から」という具合にサービスが開始されそうです。

●通信利用型先進安全自動車

こちらは道路などのインフラではなく、車車間通信によって危険を回避しようとする先進安全自動車（ASV）のデモです。ASVのフェイズは現在「5」です。かつてはABSやエアバッグといった現在では当たり前の技術を研究していた頃もあり、自動車メーカーと国土交通省が主体となって進めていくのが順当です。

交差点を横切る時、左右から車両が近付いてくることを知らせたり、救急車や消防車といった緊急車両、工事車両の存在や近付きを知らせてくれたり、歩行者にもなんらかの端末（例えば携帯電話）からの位置情報で車両にその存在を知らせる、などが想定されています。

緊急車両の情報などはすぐにでも実現しそう（実際パトカーや白バイなどならさらに厳密に）ですが、その他の車両、車両はお互いの車両が立体交差を走っていて見つからないはずなのに、警告を出すかもしれない、といった問題なども考えられます。こちらもインフラとの協調が必要でしょう。

●高速道路サグ部の交通円滑化サービス

「サグ部」とは道路の下って上っている部分、すり鉢状のそこに向かって上に登るようなシーンの総称です。

このような場合では、下りの時にスピードが上がりブレーキで減速し、上りになるとアクセルを踏むのですが、どうしても前のクルマがある程度減速しているのを確認してからアクセルを踏むのがブレンドの運転となります。でもこれでは後ろとの車間距離が空いてしまい効率につながると言われています。

これを、現在がなり多くなってきた追従型クルーズコントロール（ACC）にプラスして、車車間で車両の情報を伝え合いながら異サイクル制御する、といったことなどが考えられています。

これはACCの進化として機能を追加していただき、実現してもらいたいですね。写真のタブレットからわかるように、車車間通信で情報とのドライブも楽しくなりそうです。

- - - - - - -

このように、かなり複雑なものからそこまでやるの？といったものまで研究、実験されております。こちらも技術は車両だけでなくインフラ整備も大きく影響するのですぐにできるできないではなく、横ノ連ねが重要だと思います。

日本がリードすべき分野であるべきものは間違いないのですが、つまりこれを海外へ展開しないと経済的にも成り立たないのも事実です。先進国はもちろん、発展途上の国がこの技術を必要とするが、何番目の技術を何てるか合わせた大きなキーポイントになるのではないかと感じました。

（小林和久）

10月15日発行　クリッカー

http://clicccar.com/2013/10/15/233332/

報道記事−5

Automotive News China | Automotive News Europe | Automobilwoche | Classifieds | Mobile   Log In

Automotive News

Advanced Search | Site Map

Home | New Product | OEM Suppliers | Dealers | Access F&I | Data Center | Opinion | Video | Newsletters | Events | Webinars | Jobs

Automotive News WORLD CONGRESS — REGISTER TODAY — Bob King, President, UAW — IBM

Technology » Safety and Regulation

Self-driving cars get a reality check

Global experts outline challenges facing development of autonomous vehicles

Connected and semi-autonomous cars are on display at the ITS World Congress, where experts cautioned that the path to autonomous driving has numerous obstacles.

Photo credit: *HANS GREIMEL*

1 Comment | Print | Reprints | Respond

Hans Greimel
Automotive News

TOKYO -- The annual ITS World Congress arrived here last week just as Typhoon Wipha did. The timing was apt: The typhoon's lashing rains weren't alone in throwing cold water on optimism over self-driving cars and interconnected vehicles.

At the annual gathering to discuss intelligent transportation systems, engineers and operators alike injected doses of realism about the hurdles ahead for those technologies.

It was an ironic about-face for the annual gathering. In years past, the congress was largely a platform for experts to tout the potential of intelligent transportation. But as self-driving cars have grabbed the public's fancy, those same experts have become the voices of caution.

The roadblocks are plenty, even as companies such as Nissan, Tesla and Google race to unveil plans to develop autonomous cars by 2020.

Thought Leadership
ERP from the Plex Manufacturing Cloud
Sponsored by PLEX SYSTEMS
- Learn how cloud ERP solutions deliver 1.7 times more ROI than on-premise systems.
- Make smarter business decisions and boost profitability with real-time data visibility.
- Complete shop floor integration improves productivity and quality for this auto manufacturer.
- Ten warning signs that your ERP is sucking the life from your business.
- Automotive supplier achieves 100% production traceability with the Plex Cloud.

SUBSCRIBE | FREE ACCOUNT
SEE HOW UPS CAN UNLOCK THE HIDDEN VALUE IN YOUR SUPPLY CHAIN.
LEARN MORE
WE ♥ LOGISTICS

Latest Headlines
- Nissan sees Rogue, Sentra gains in October
- Ram 1500 with surfboard rack, shower leads Mopar's SEMA offerings
- GM and TRW likely parting ways on $700 million brake contract
- JCI says divesting unprofitable interiors unit is an option
- Penske's Q3 net surges 59% on strong U.K. sales
- Ford Fiesta SE gets 45 mpg EPA highway rating, highest of any gasoline non-hybrid
- More Headlines

UPS CAN HELP YOU EVALUATE YOUR SUPPLY CHAIN TO SAVE TIME AND MONEY.
SEE WHAT WE DID FOR ROUSH

10月21日発行　Automotive News

http://www.autonews.com/article/20131021/OEM06/310219861/se...#axzz2izpN9Ndy

報道記事-6

10月23日　NHK　クローズアップ現代

http://www.nhk.or.jp/gendai/kiroku/detail_3420.html

報道記事-7

TBSテレビ Nステ
2013年10月11日夕方

フジテレビ スーパーニュース
2013年10月11日夕方

ASVチームの個別広報企画の成果

⇒V2P（歩車間通信）利用による歩行者情報提供システムへの関心が非常に高く、報道内容も本システムを重点的に紹介するものが目立っていた。

報道記事-8

なぜBC誌面に宇宙人が!?

不思議で たまらない

クルマ界のあらゆる不思議に迫る!

不思議 国際会議が東京で開催されたITSの不思議に迫る

DSSSの運転支援のイメージ

CHECK POINT 飯田裕子のITSここが注目ポイント!!

CHECK POINT 超貴重な燃料電池バスでITSスポット体験

ITSの普及には官民一体となったインフラ整備や法整備が必須なのだ

10月26日発売　ベストカー

飯田裕子氏記事

報道記事-9

清水和夫の
持続可能なクルマ社会への挑戦

Vision for Sustainable Mobility

第10回

整備が急がれる日本のITSの現状。

ITS世界会議が東京で開催され、ITSに大きな注目が集まっている。
そこで今回は、日本のITSの現状と今後の問題点について考えてみたい。

現在日本で進められている4つのITSプロジェクト

ITSを実用化で重要なのはヒューマンインターフェイス

11月1日発売
モーターマガジン　12月号

清水和夫氏記事

広報活動結果まとめ

報道記事

- 積極的広報活動の成果により想定以上の露出、社会への周知に貢献した
- 実用化に向けての期待、課題などの指摘が得られた

協力ジャーナリストによる成果

- 自動車専門家の観点で、ITS世界会議参加者からは得られない貴重なアドバイスを得た
- 多数の発信が一般市民の認知拡大に貢献している

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

ITS世界会議東京2013期間SHOWCASE活動

ITS GREEN SAFETY

主体側参加者数

■ 350名を超える参加者によりSHOWCASEを実施

	主体参加者概数
GS1	135
GS2	
GS3	40
GS4	45
GS5	50
事務局、広報部員	10
運営要員	70
計	350

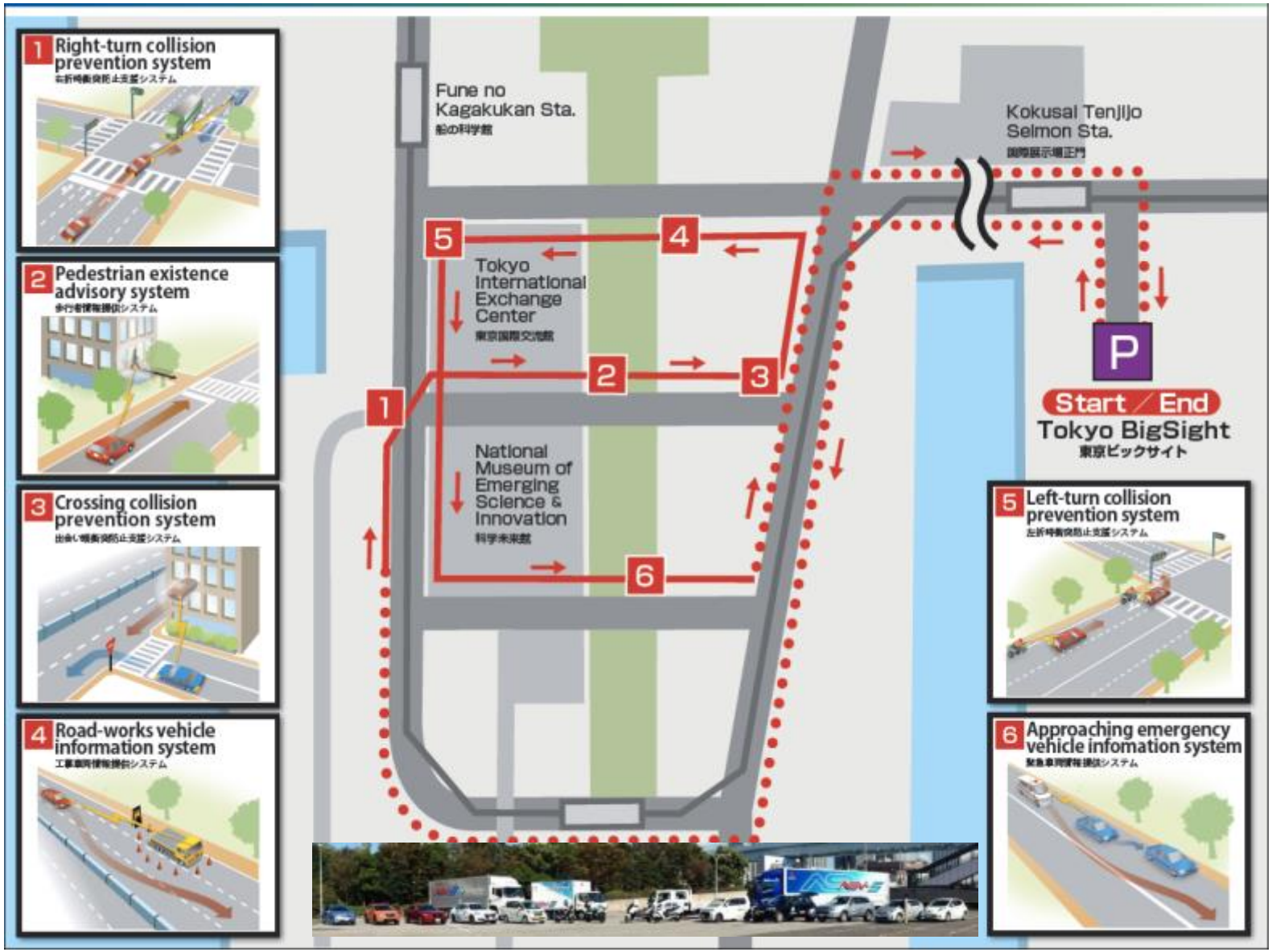
SHOWCASE試乗コース

次世代DSSSサービス試乗

■ 参加5社が提供する試乗者で体験

通信利用型先進安全自動車試乗

■ 参加16社により提供される試乗車で体験



ITSスポット試乗

■ 2台のバスによる体験試乗

- ロングコース（EMV決済デモ有）
- ショートコース（EMV決済デモ無）
- 羽田コース（メディア対応用）

燃料電池バス

マイクロバス（国土交通省）

- 10月17日、18日：一般参加者試乗実施
- 10月18日：特別企画実施

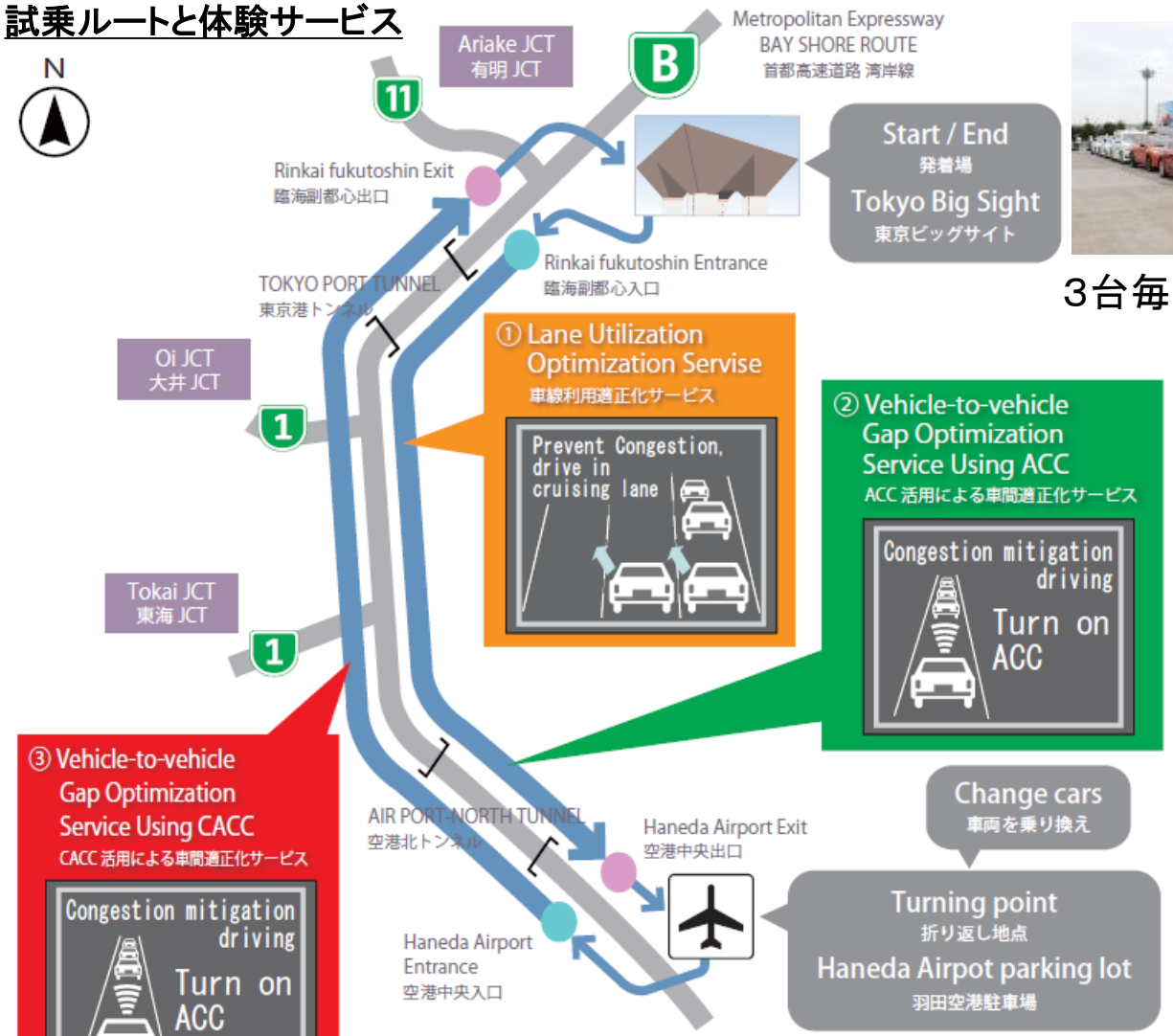
高速道路サグ部の交通円滑化サービス試乗

ITS GREEN SAFETY

ITS Japan

■ 参加5社により構成する3台の隊列車両に分乗しサービスを体験

試乗ルートと体験サービス

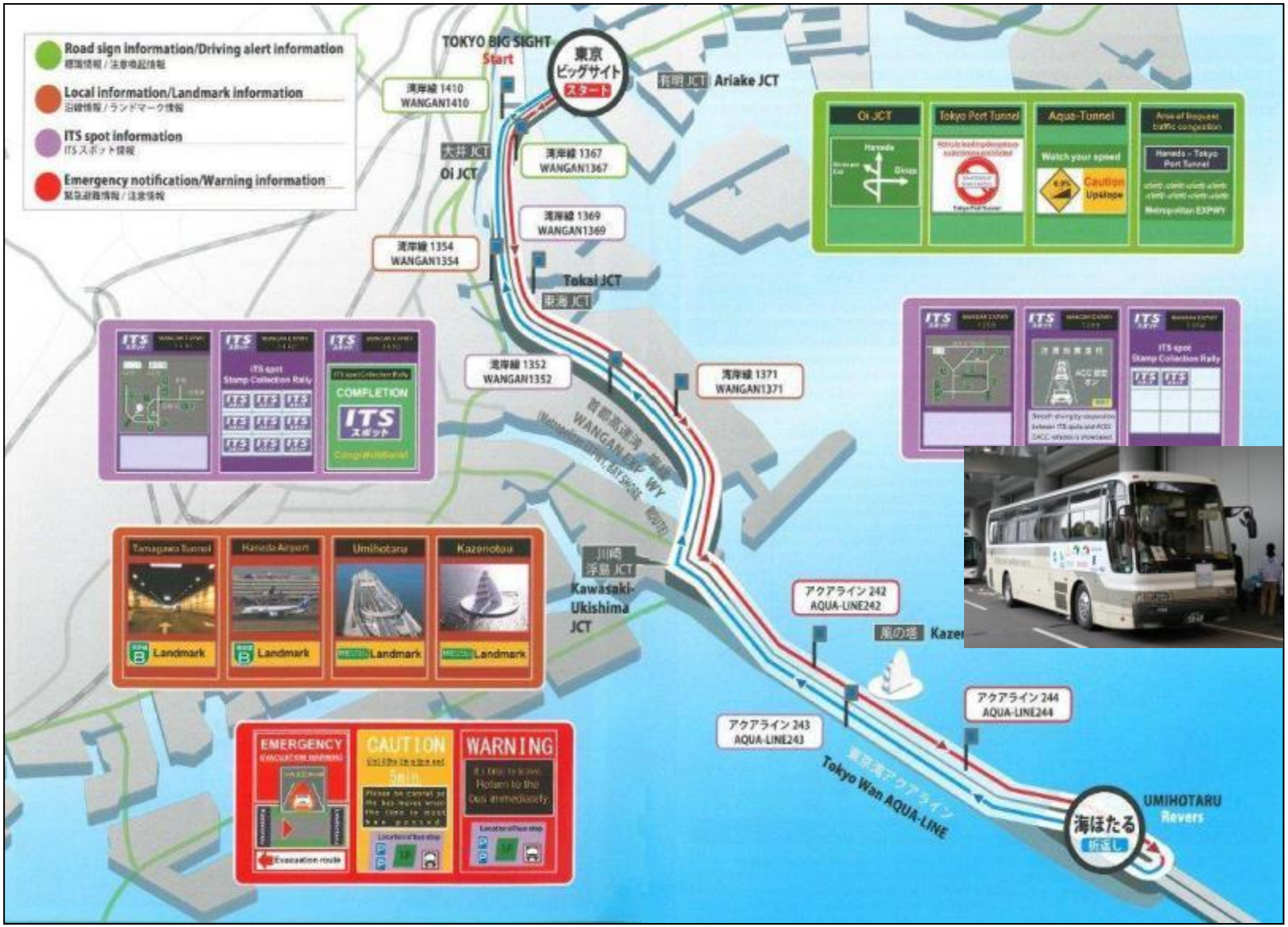


3台毎の隊列を構成

※ Participants will be divided into two separate groups.
Each group will experience a different service during trips and return trips.
※ 2つのグループに分かれて、グループ毎に往路、復路での体験サービスは異なります。

モバイル通信とITSスポットの協調サービス試乗

■ 大型バスに乗車し、提供されるスマホによりサービスを体験



ITS GREEN SAFETY
ITS

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

SHOWCASE試乗者による評価

ITS GREEN SAFETY

試乗アンケート

■ 全試乗者に共通の試乗アンケートを実施

Q 協調型ITSの実用化拡大に向けて必要と思われるもの

Q 協調型ITSに最も期待するもの

ITS GREEN SAFETY

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE 試乗アンケート

今後のシステム開発や普及促進に皆様の声を参考にしたいと思います。お手数ですが、以下のアンケートにお答えください。

S01: 次世代DSSS

A-1. あなたについてお答えください。

1	会議登録 ID 番号	
2	地域	□日本 □Asia-Pacific Region □Europe □Americas □Others
3	職業	□学生 □教員 □官公庁関連 □自動車関連 □電気通信関連 □メディア □その他
4	年齢	□10 代 □20 代 □30 代 □40 代 □50 代 □60 代以上

「ITS GREEN SAFETY」は、"世界一グリーンで安全な道路交通社会の実現"を目指して、日本の官民が協力し、協調型 ITS システムにより交通問題解決に取り組む活動の総称です。協調型 ITS システムとは、道路インフラ(I)、車(V)、歩行者(P)が相互に通信することにより、認識しにくい情報を提供して危険を回避したり、環境と人にやさしい交通社会を実現するシステムをいいます。

A-2. 「協調型 ITS システム」の実用化拡大に向けて、必要と思われるものを5つまで選んで、チェックしてください。

□官民連携の取組み □大規模な検証 □民間活用 □海外市場展開 □標準化推進
□インフラ提供箇所拡大 □車載器の購入促進策 □国民の認知向上 □標準装備化
□サービス効果の発信 □提供情報の信頼性 □位置精度向上 □技術開発のスピードアップ □高速大容量通信
□HMI の進化 □スマホの活用 □クラウド化 □ビッグデータ □セキュリティ □プライバシー
□その他( )

A-3. 「協調型 ITS システム」に最も期待するものを5つまで選んで、チェックしてください。

□大型車事故防止 □2 輪車事故防止 □歩行者事故防止 □自転車事故防止 □乗用車事故防止
□生活道路事故防止 □交差点事故防止 □高速道路事故防止
□渋滞の削減 □CO_2排出量を低減 □グリーンウェーブ □ロードプライシング □交通渋滞予測
□移動時間の削減 □運転が楽になる □運転が楽しくなる □緊急時の情報提供 □災害時の情報提供
□高齢者の移動支援 □利用料金が安くなる □ポイントがたまる □人に自慢できる
□その他( )

試乗者数

ITSGS 試乗者数及び参加車両数

	10月15日		10月16日	10月17日	10月18日	計	車両数
	VIP･ﾌﾟﾚｽ枠	一般枠					試乗車数
GS1	2/12/12	0/0/32 (0)	30/32/64 (28)	59/64/64 (57)	―	**91**/108/172 (85)	18 13
GS2	8/17/17 (8)	0/0/34 (0)	34/34/68 (33)	68/68/68 (66)	―	**110**/119/187 (107)	33 17
GS3	6/20/35 (5)	23/50/50 (23)	24/50/105 (23)	61/105/105 (58)	60/70/70 (59)	**174**/295/365 (168)	2 2
GS4	2/12/12 (2)	0/0/36 (0)	28/36/60 (27)	60/60/60 (52)	―	**90**/108/168 (81)	11 7
GS5	6/41/41 (6)	41/82/82 (41)	27/41/123 (26)	104/123/123 (104)	―	**178**/287/369 (177)	1 1
計	24/102/117 (21)	64/132/234 (64)	143/193/420 (137)	352/420/420 (337)	60/70/70 (59)	**643**/917/1261 (618)	65 40

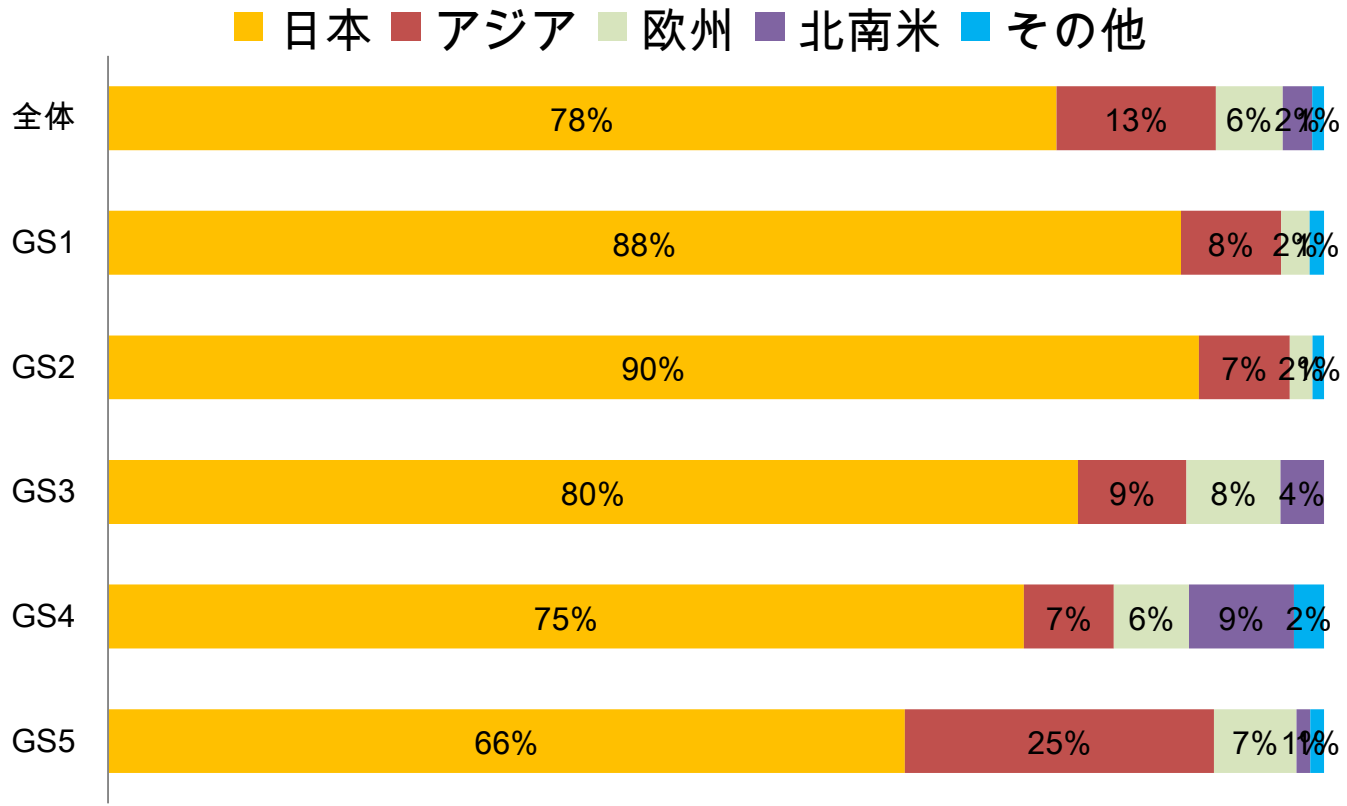
＊ 試乗者数は、実数／試乗枠/当初計画数 （10月15日午後GS1,2,4、10月16日午前は全GSが、台風のため中止）
＊ 下段 カッコ内はアンケート回収数

試乗者の属性

■ 試乗者の地域

日本	アジア（AP）	欧州	北南米	その他	計
482	81	34	15	6	618
78%	13%	6%	2%	1%	

試乗者の地域　（N=618）

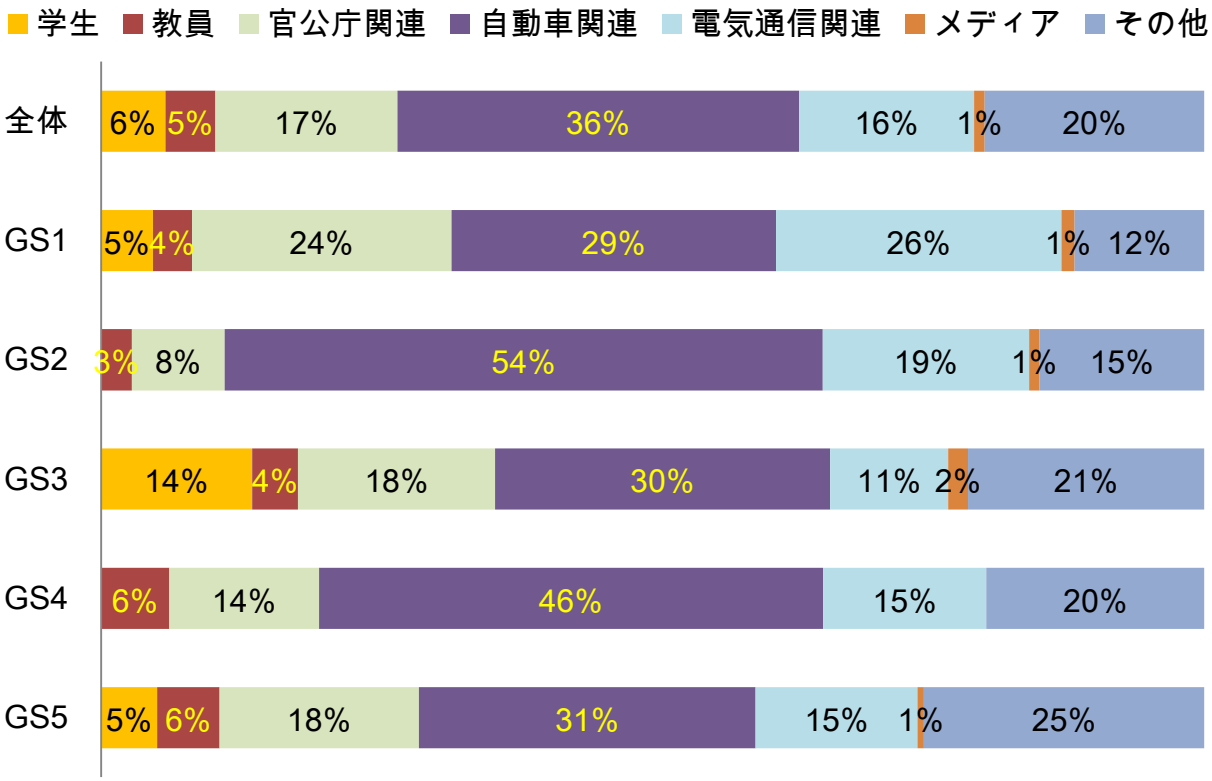


試乗者の属性

■ 試乗者の職業

学生	教員	官公庁関連	自動車関連	電気通信関連	メディア	その他	計
36	28	102	225	98	6	123	618
6%	5%	17%	36%	16%	1%	20%	

試乗者の職業　（N=618）

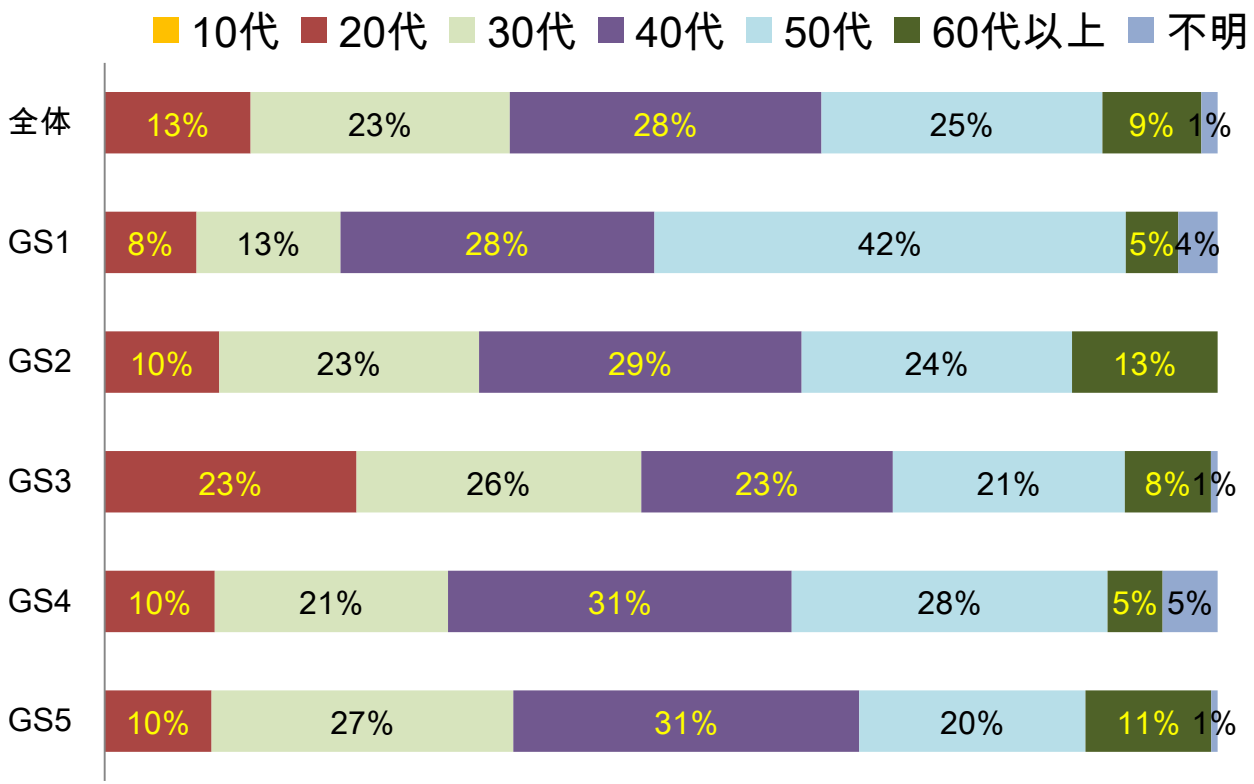


試乗者の属性

■ 試乗者の年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	計
0	81	144	173	156	55	9	618
0%	13%	23%	28%	25%	9%	1%	

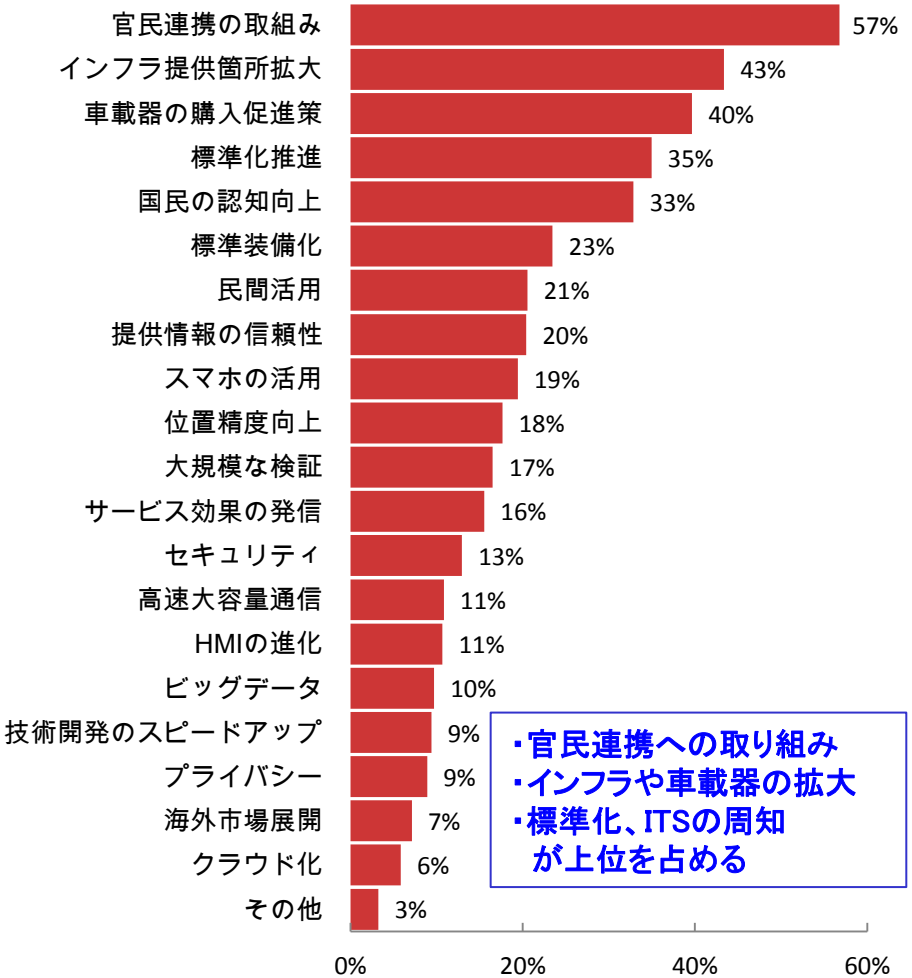
試乗者の年齢　（N=618）



試乗アンケート分析結果-全般

1. 「協調型ITSシステム」の実用化拡大に向けて必要と思われるもの （5つまで複数選択）

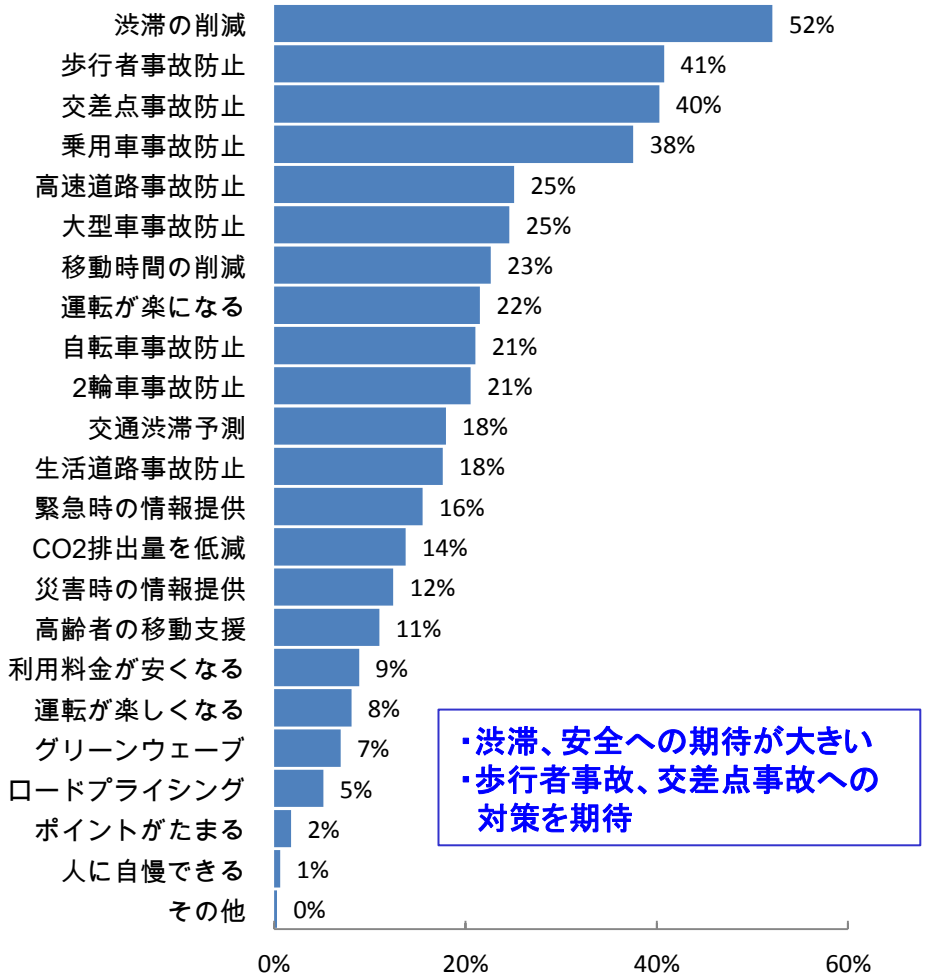
全体（10/15-18） N=618



その他の意見：料金の無料化、注意散漫防止情報の提供、インフラ機器の共用化によるコストダウン、ユーザーメリットの明確化、情報のオープン化、ビジネスモデル、法規制緩和

2. 「協調型ITSシステム」に最も期待するもの （5つまで複数選択）

全体 （10/15-18） N=618



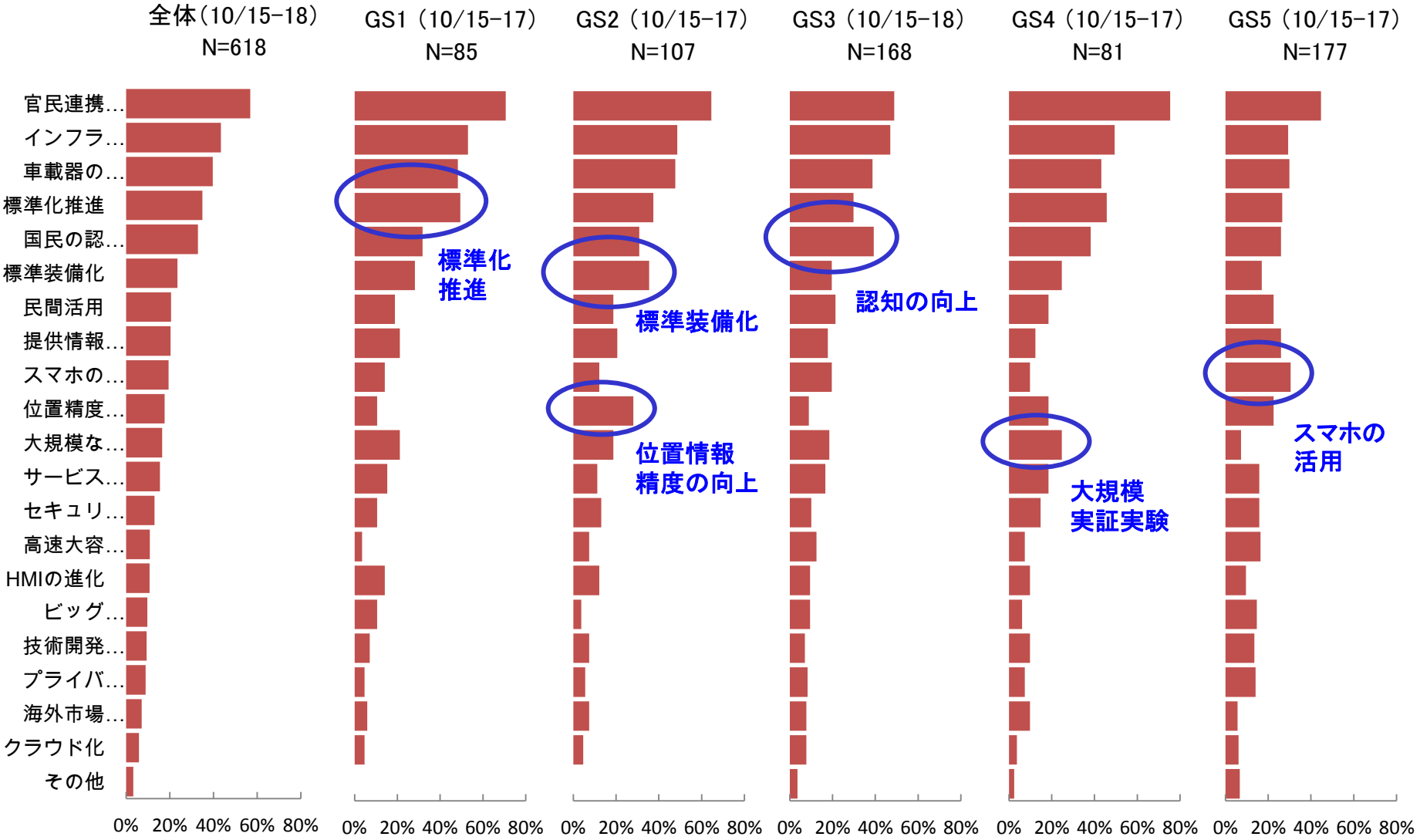
その他の意見：基本的に安全対策→次に渋滞、高齢化への対応
進路情報提供、Cost efficiency of vehicle

試乗アンケート分析結果-SHOWCASEによる差

ITS GREEN SAFETY

ITS Japan

■ 「協調型ITSシステム」の実用化拡大に向けて必要と思われるもの（5つまで複数選択）



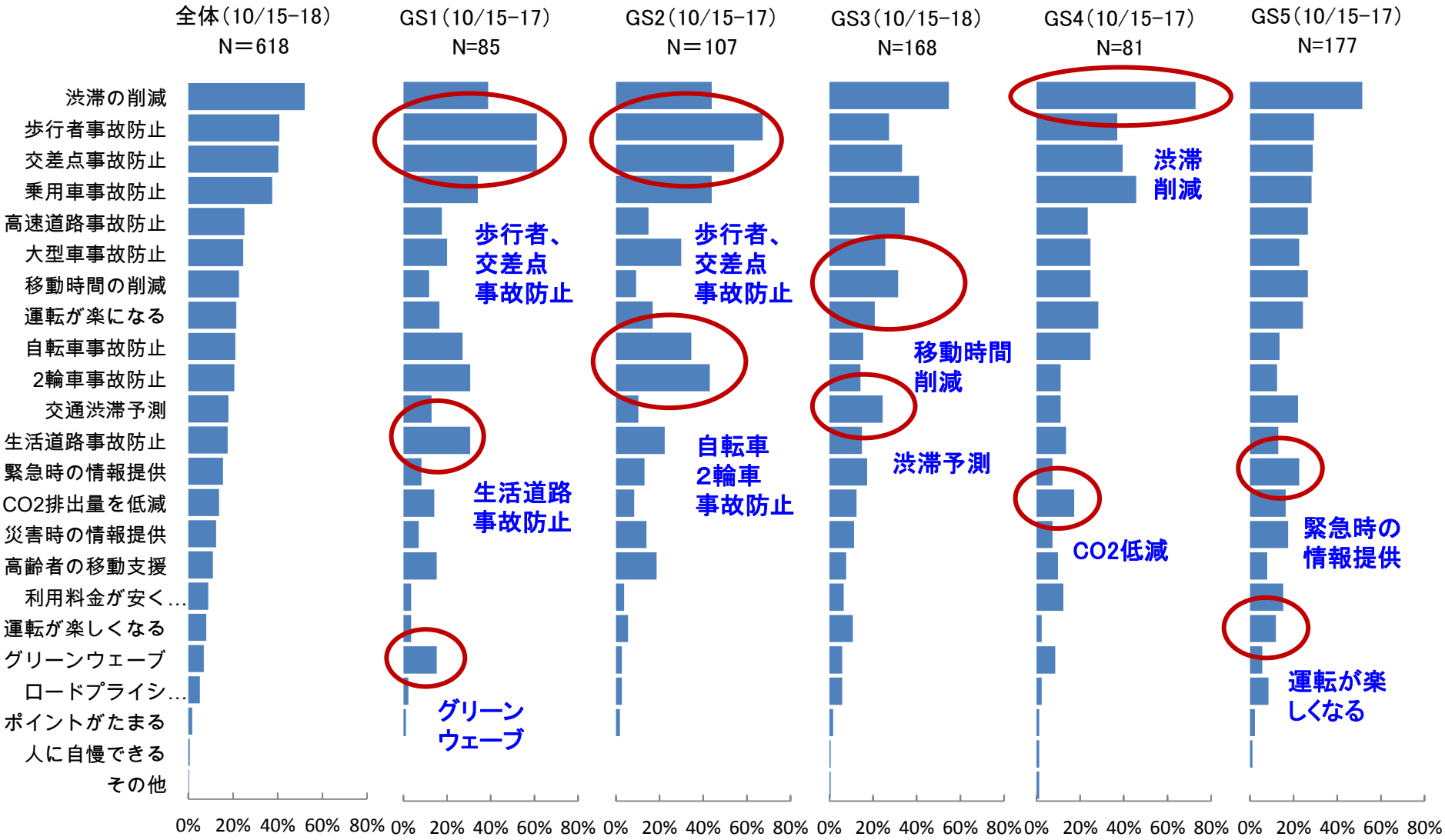
・試乗したデモの影響がみられる。（ で表示）

試乗アンケート分析結果-SHOWCASEによる差

ITS GREEN SAFETY

ITS Japan

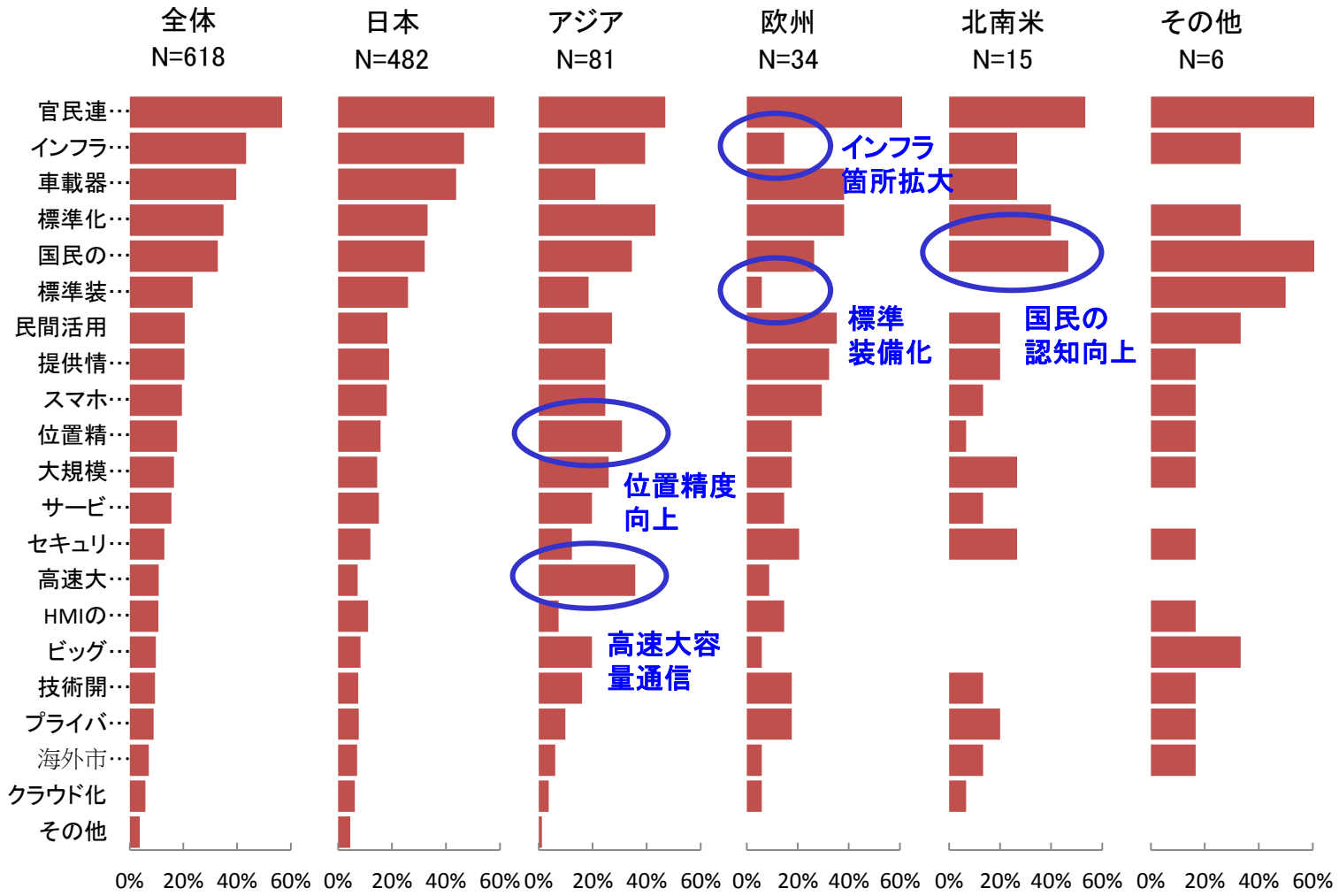
■ 「協調型ITSシステム」に最も期待するもの （5つまで複数選択）



・試乗したデモの影響がみられる。（ ◯ で表示）

試乗アンケート分析結果–参加地域による差

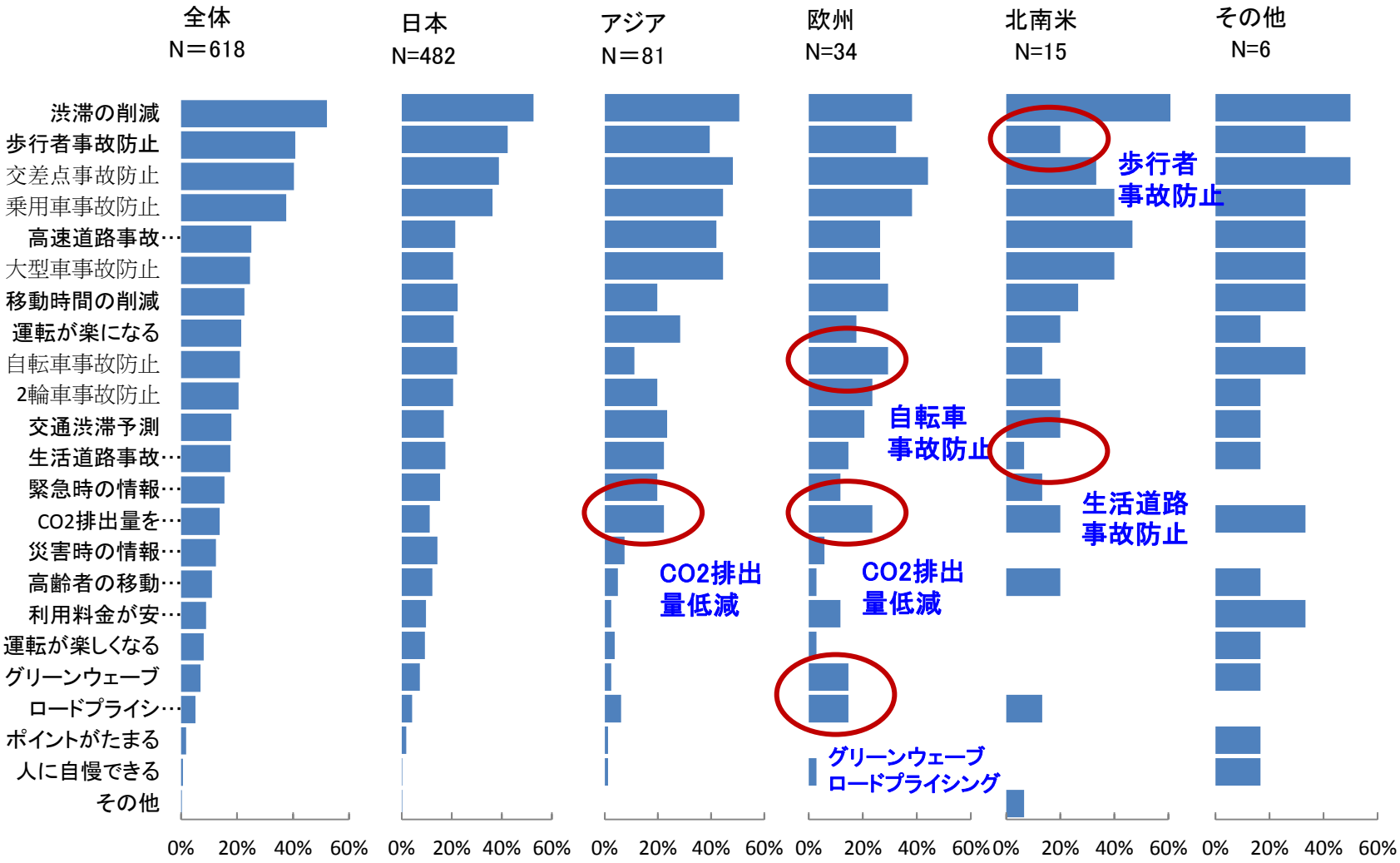
■ 「協調型ITSシステム」の実用化拡大に向けて必要と思われるもの（5つまで複数選択）



・試乗者の地域の特性がみられる。（ で表示）

試乗アンケート分析結果-参加地域による差

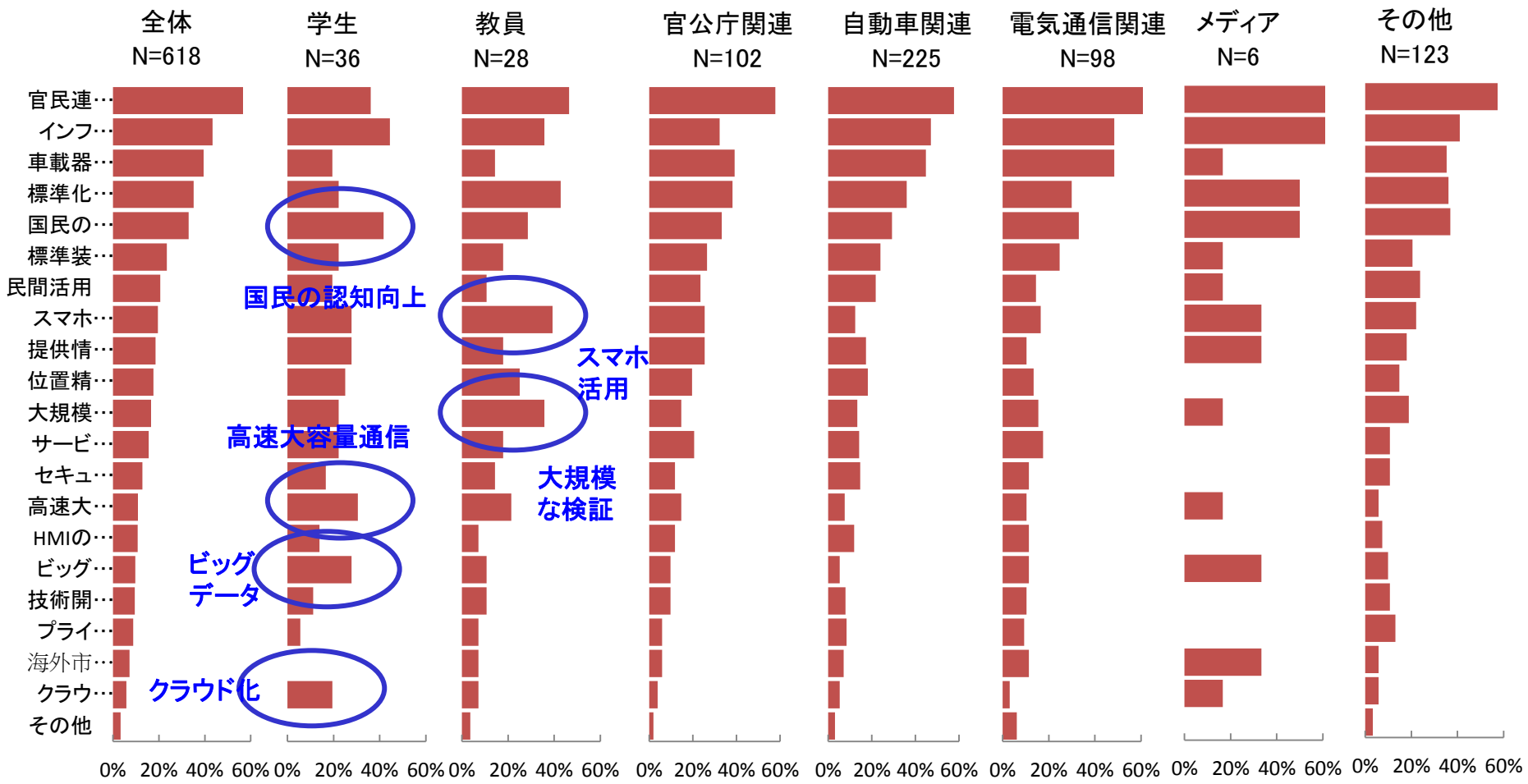
■ 「協調型ITSシステム」に最も期待するもの （5つまで複数選択）



・試乗者の地域の特性がみられる。（ ◯ で表示）

試乗アンケート分析結果–参加者職業による差

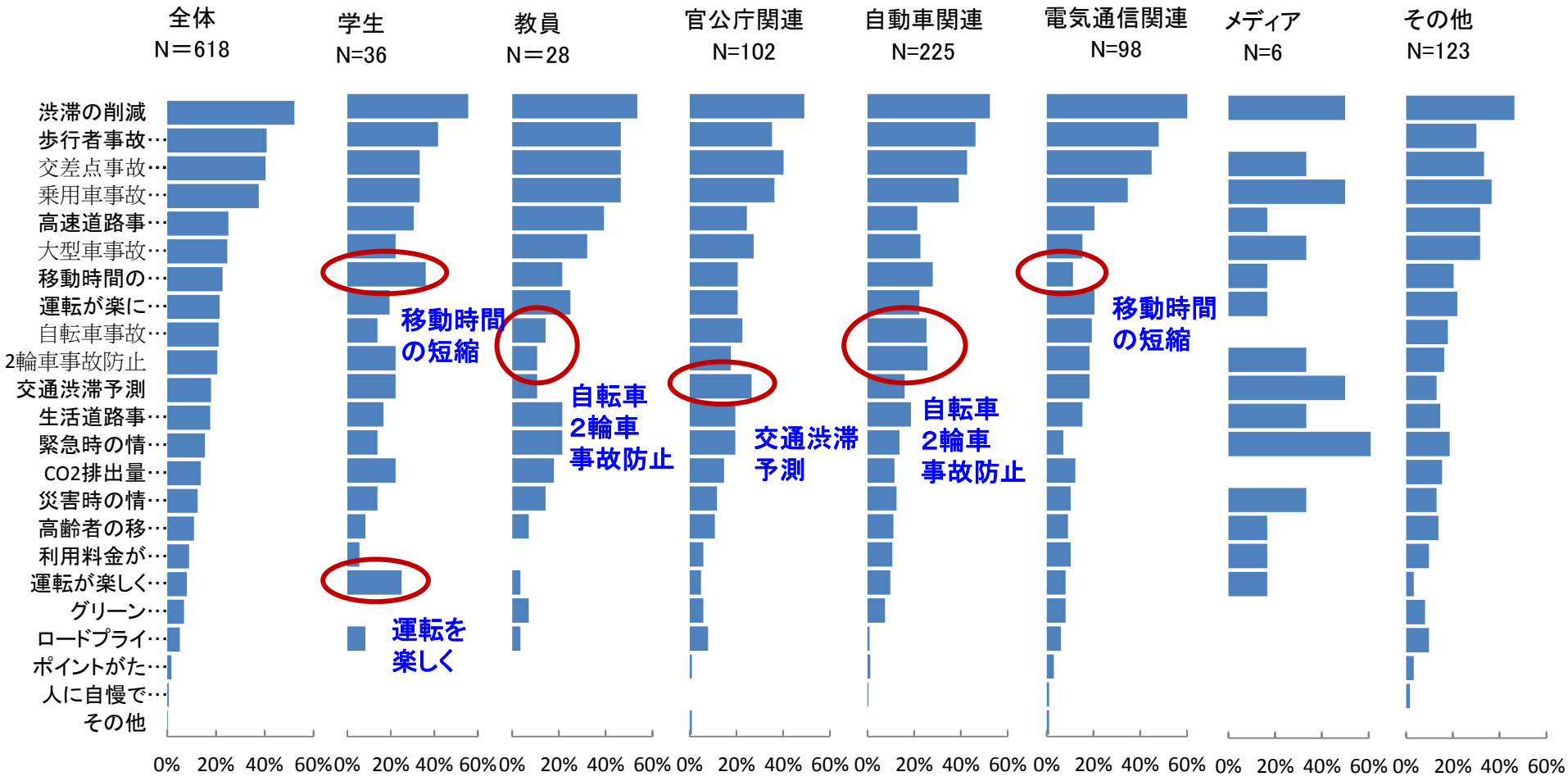
■ 「協調型ITSシステム」の実用化拡大に向けて必要と思われるもの（5つまで複数選択）



・試乗者の職業の特性がみられる。（ ◯ で表示）

試乗アンケート分析結果−参加者属性による差

■ 「協調型ITSシステム」に最も期待するもの （5つまで複数選択）



・試乗者の職業の特性がみられる。（ ◯ で表示）

試乗アンケート分析結果まとめ

1. 属性

・**日本の方の試乗が78%**と多く、国内外へのアピールという点では不十分であった
・海外の方々はセッション等に参加ため試乗の機会が少ないと推察
・自動車関連の方々の割合が多く、GS2は54%であった
・年齢層は30代、40代、50代が中心で、20代以下の若年層は13%と少ない。

2. 「協調型ITSシステム」の実用化拡大に向けて必要と思われるもの

・**“官民の取り組み”**を選択した試乗者が57%を“占め、今後の活動に必須課題である
・インフラ設置や車載器数を増やす工夫が必要
・標準化の推進、及びITSの周知が不足という指摘があり、今までのやり方を見直す必要

3. 「協調型ITSシステム」に最も期待するもの

・**“渋滞の削減”**への期待が、52%と一番多く、重要課題
・**“事故削減”**への期待は、細分化された項目を合わせると極めて期待が多く、引き続き重要課題
・“歩行者事故防止”への期待が41%を占め、今後の取組みの強化が必要
・“交差点事故防止”への期待も40%と大きな割合を占め、対策が必要

4. まとめ

・実用化拡大には、**官民連携**による取り組みが強く要望されている
・**安全対策、渋滞対策**への期待が大きく、今後の活動の主課題
・**海外のキーマンから意見を求めるには、試乗に充てる時間を作る工夫が必要**
・試乗したデモの訴求が回答に影響した結果が見られ、技術の理解促進に試乗が有効

各SHOWCASE試乗者評価の分析

1. 確認したいこと

- サービス、機能が理解できたか?
- サービス、機能が有効と思うか?
- 利用したいか?
- 整備拡大を要望するか?
- 購入したいか?
- 改善要望は?
- お客様の生の意見

2. 刈取り

- 各SHOWCASE試乗後のアンケートにより評価を回収
- ジャーナリストによる評価

◆ 回収結果を各SHOWCASE主体で分析
◆ 今後の開発に有効な情報が刈り取れた

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

セッション活動

ITS GREEN SAFETY

ITS GREEN SAFETY セッション

■ **下記2件を、ITS GREEN SAFETY チームから世界へ発信**

1. HS 18 Cooperative ITS for Now and the Next － Round 2 －
2. SIS 22 Cooperative Mobility Workshop

HS 18 Cooperative ITS for Now and the Next － Round 2 －

【狙い】

■ 欧米でのCooperative ITS実証試験の代表を招き、Cooperative ITSの実用化の課題、実用化に向けた国際連携を議論

■ 2012年ウィーン実施セッションの第2回として自動車会社を中心として実施

ITS Japan
Organizer/Moderatorを担当

ホンダ横山氏　Bast　Herb氏　Nissan NA Goudy氏　ICSC森氏

HS18 セッション内容

【結果概要】

■ ICSC委員長　森氏

- インフラ協調システムとして、ITS GREEN SAFETY SHOWCASEの紹介とそれらの効果、将来の展望を報告

■ 米国：CAMP/Safety Pilot代表　Goudy氏

- FOTの状況、V2Vメッセージのセキュリティの検討状況を報告

■ 欧州：COMeSafety代表　Herb氏

- Cooperative ITS Corridorの紹介と、C-ITSの実用化に向けたアムステルダムグループの取り組みを報告

■ ホンダ　横山氏

- ホンダのITSへの取り組み、位置精度や自律系センサーとテレマティックスの協調、自動運転の課題などを報告

米国：CAMP V2V Safety Research Initiatives

ITS GREEN SAFETY

ITS Japan

- CAMP VSC3 Consortium と US DOTの協調プロジェクト
  - V2V Model Deployment
  - V2V Security Studies
  - V2V Interoperability

◆ セキュリティを中心に途中経過を報告
◆ 今回FOTの結果に関する報告は無

- V2V Model Deployment
  - 64台の integrated light vehicles (ILV)
  - Vehicle Awareness Devices (VAD)を搭載した2200台の車両
  - Aftermarket Safety Devices (ASD)を搭載した300台の車両

CAMP
Vehicle Safety Communications 3
Mercedes-Benz Research & Development North America, Inc.
GM
TOYOTA
HONDA
Honda R&D Americas
Ford
NISSAN
HYUNDAI·KIA MOTORS
Hyundai·Kia America Technical Center, Inc.
VOLKSWAGEN GROUP OF AMERICA
Intelligent Transportation Systems

◆ Goudy氏はCAMPのメンバー
◆ 前回ViennaはFORDから参加

NHTSA
www.nhtsa.gov

U.S. Department of Transportation
Federal Highway Administration

VirginiaTech Transportation Institute

RITA Research and Innovative Technology Administration
Volpe National Transportation Systems Center

DENSO North America

AUTOMOTIVE EVENTS

欧州：The corridor NL-DE-AT

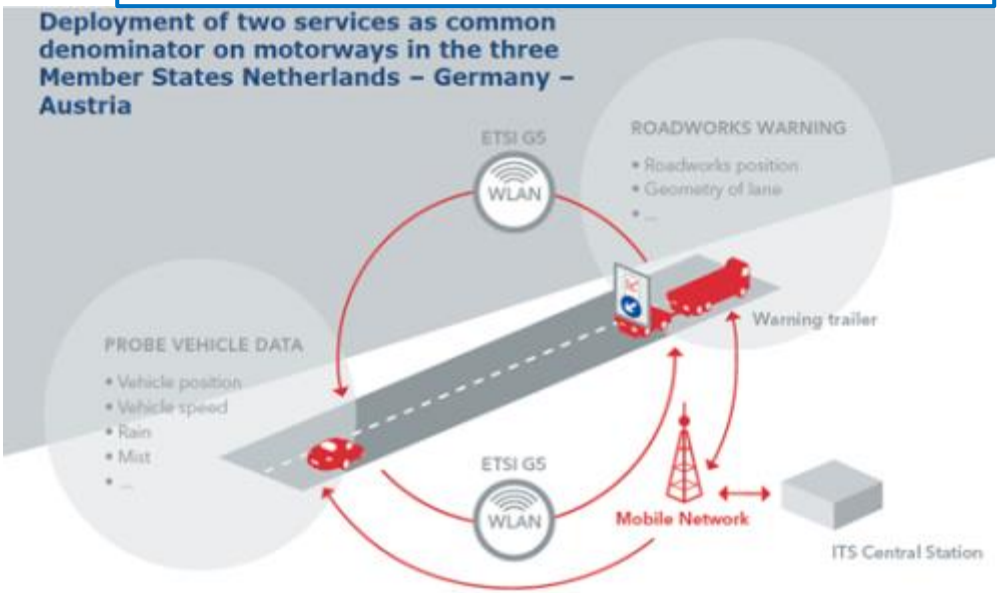
- C-ITSの欧州初の展開が始まる
- 2013年6月10日にドイツ、オーストリア、オランダが合意

The Phase

1. Pre-development and proof-of-concept
2. Road Works Warning とProve Vehicle data
   - Cooperative ITS Corridor (NL-DE-AT)
3. 全国的な展開

Cooperative ITS Corridor
Joint deployment

- ◆ 欧州におけるC-ITSの展開
- ◆ アムステルダムグループの紹介



COMeSafety2

- EC内でのC-ITSサービスの実用化と展開を推進
- 欧米の連携など国際協調を推進
- 世界中で実施しているFOTの成果を最大限活用

Context : 7th Framework European Coordination and Support Action
Duration : Jan 2011 – Dec 2013
EC Funding : 2.3 m€

◆ Herb氏はbast所属でCOMeSafetyから派遣
◆ 前回ViennaはBMWから参加

COMeSafety2 Partners:

BMW Group Forschung und Technik

bast

DAIMLER

ERTICO ITS EUROPE

FIAT CRF CENTRO RICERCHE FIAT

Soeren Hess

ITS Niedersachsen GmbH

RENAULT

Transportation Sustainability Environment Consulting TSE

VOLVO

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE

特別企画

ITS GREEN SAFETY

『つながるクルマの未来』を清水和夫さんと語ろう

ITS GREEN SAFETY

ITS Japan

■ **全体構成：10月18日金曜日　9時～13時**

- 第1部　ITSスポット体験試乗（70分：燃料電池バス、マイクロバスに分かれて試乗）
  - ✓ 試乗中の専門家の説明を含め、ITSをじっくり体験
- 第2部　ITS白熱討論会（120分）
  - ✓ ITSの試乗体験も踏まえて、『つながるクルマの未来』を討論

■ **目　的**

- 一般公開日に若者向イベント を提供し、ITSに関する興味を喚起
- 結果並びに映像記録を、ITS訴求活動に活用
- ゲスト（自動車ジャーナリスト、大学教授）自身による情報発信にも期待
- 参加者の意見、イベントの反響を実用化推進に活用

■ **参加者**

- 一般参加者約30名
- MC：清水和夫さん、飯田裕子さん
- 主催者側参加者
  - ✓ 西川昌宏　国交省道路局企画専門官
  - ✓ 大口　敬　東京大学教授
  - ✓ 森　敬一（トヨタ）
  - ✓ 安井孝之（朝日新聞社　記者）
  - ✓ 川合健夫（デンソー）
  - ✓ 柴崎裕昭（パイオニア）
  - ✓ 内村孝彦（ITS GREEN SAFETY 事務局）

燃料電池バス

国交省バス

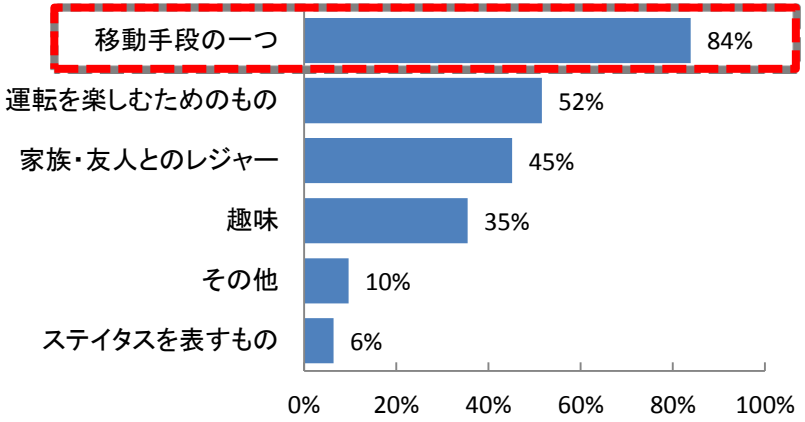
『つながるクルマの未来』を清水和夫さんと語ろう

■ 討論会参加者の構成 ： 29名（男性22名 女性7名）

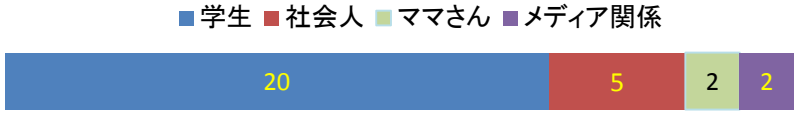
- 一般
- 学生（機械、情報、環境情報、商学部、都市計画、都市インフラ、交通工学）
- 子供を持つママさん
- メディア

参加者の年齢層 （N=29）

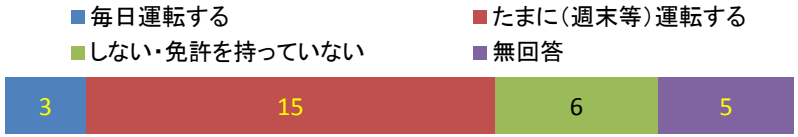
応募者のクルマのイメージ （N=31）



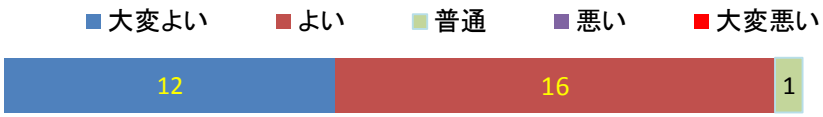
参加者の職業 （N=29）



車の運転（N=29）



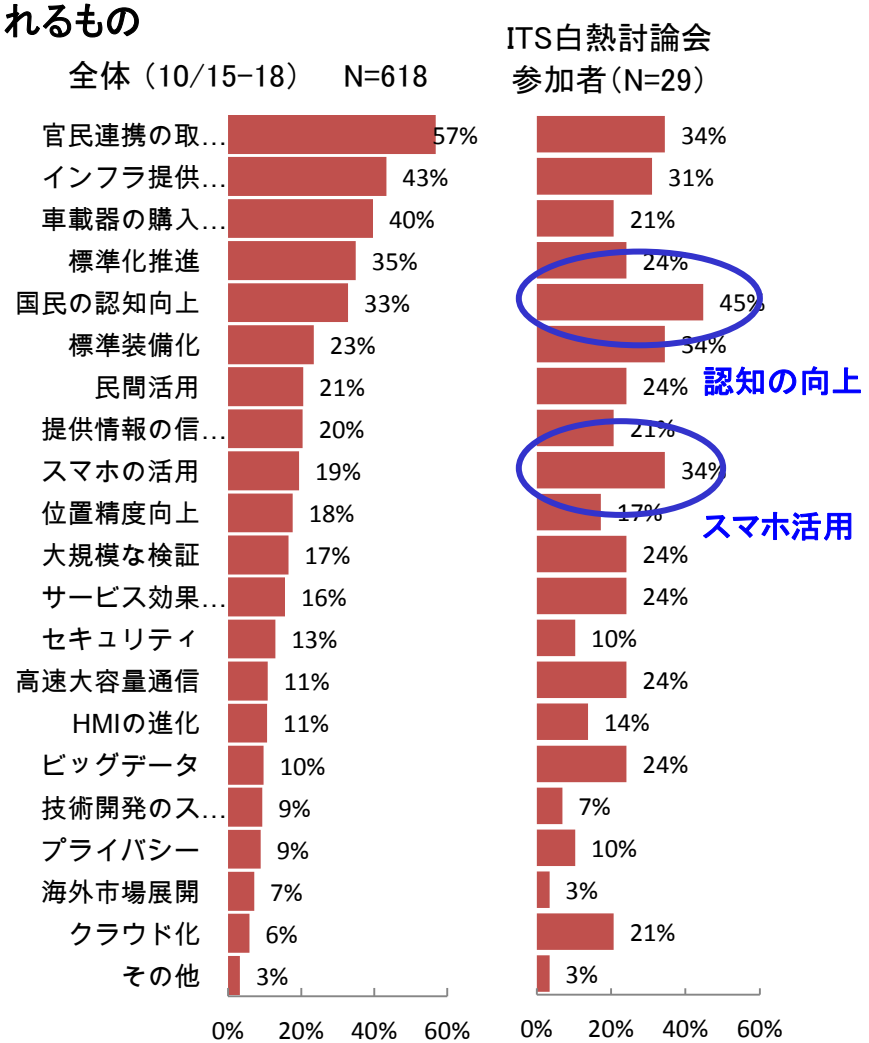
ITS白熱討論会の感想（N=29）



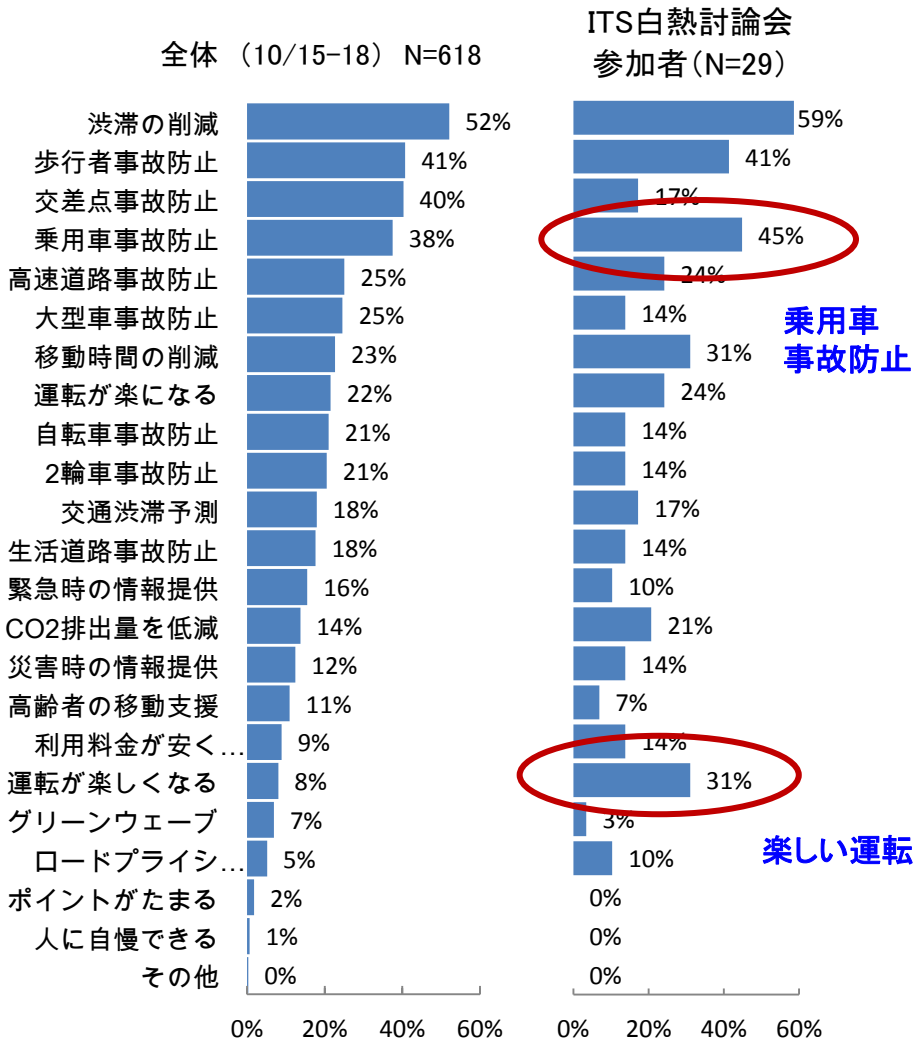
試乗アンケート分析結果−一般参加者との比較

■ 試乗後アンケート （若い人の特性）

「協調型ITSシステム」の実用化拡大に向けて必要と思われるもの



「協調型ITSシステム」に最も期待するもの



・サンプル数が少ないが、ITSの専門家と異なる若い人の特性が出ている。

ITSGS特別企画事後アンケート

■ 参加者アンケートの主な意見

参加して、感じたこと、理解や考えが変わったこと

・ハッキリ言って、カーナビのない車にはどうするのか？旧車乗りはどう対応するのか？
・車が好きな立場の人間の目線で見たとき、ITSと人間の距離感のとり方は、これまで常にはかりかねていた部分があったが、今回の議論でその手がかりを得ることができた。
・車の運転が、人のコミュニケーションの練習という話は新鮮でした。
・ITSは大きな可能性を秘めているが、認知度が低いと感じた。もっと世間に周知したり、若い世代に限らず、アイデアを募るワークショップがあると楽しいと思う。
・ITSは、想像しているものよりすごく良いものでした。発達してITSが通常装備となればもっと楽しい車生活が待っていると思いました。

- ITSついての知識が少なかった
- ITSの可能性を感じた
- ITSについて知る場が欲しい
- 自動運転と全自動洗濯機の違い
- 人が中心であるべき
- どこまで人が判断するか
- つながり過ぎによる功罪を考える必要有

・「自動車との距離が近くなるのではないか」という意見なのですが、若者の車離れの原因は価格と別の楽しみができたことだと思います。逆に、自動化等で運転をしないで車に乗れることで、車に対する興味が増えるかもしれないと思った。
・「ITSというツール」の意識が強まった。ツール(道具)は、使う者がどう生かすかが大切！
・いろいろな知識を得る機会があったが、プレゼンが長かった。学生たちがどんな意見を持っているか、もっと知りたかった。7年後にまた同じ人が集まるという発想は面白い！
・自動運転と人の判断の境目、どこまで自動で、どこまで人かを判断するのは困難な問題だと感じた。自動化にデメリットが多く存在すること。
・自分たちでどのような交通社会を創っていくかを考えられることがとてもすばらしいことだと思いました。自動化の話なども、まだまだ色々問題があることが勉強になりました。
・10代20代の方々が、どのように考えているのかよく分かりました。中でも自動化に対して、興味を持たれていることにも驚きました。
・自動化技術、IT技術に対して、必要以上に高い期待を持っている人が予想以上に多い。
・つながりすぎ、情報のありすぎ、となった時の功罪を考える必要があり。

安全で環境にやさしいクルマ社会実現に、何が必要か？どんな交通社会にしたいと思うか？

・人とクルマの関係性を一義的に定義せず、関わる人がそれぞれの考えをもとに関係性を作っていくことのできるような環境と技術
・人がどこまでやって、機械（車）がどこまでやるかをちゃんと判断して考える「道徳観念」みたいなものが必要だと思いました。
・今後、車は馬のような存在になるべきだと感じた。ある程度は勝手に判断し、必要があれば随時ドライバーに判断をあおぐ。まさに人馬一体社会。
・人と車、最後は人の判断。ドライバーが前を見ていないと実感。

- 人と機械の分担の明確化
- 人の意識が重要
- 人が自動化を選択できる社会にするべき
- 情報の取捨選択が重要
- 人と人のつながりも重要

・人々の車に対する意識が重要だと思いました。車に興味を持たない人は、車を運転している時、車の外には、人がいるという意識。一方で、車好きの人は、興味のない人に、伝えるべきことは車の魅力ではなく、車があることで生まれる世界を考えた方がいいと思いました。
・人の意識が一番必要。技術とともに認知度を広め、利点欠点を知ったうえで考えていく必要がある。
・若い人たちがもっと車に乗る機会を持ってほしい。ファミリーになるとやはり車は必須になる、現実として。その時に誰も車に乗っていなかったら、と思うと怖い。特に都心は電車が凄く混むので。
・人間と自動車の距離が近づくようなシステム。
・自動車の自動化について、私は2極化すると思っていて、全く運転をしたくない交通手段としての車と、趣味としての車になると思います。その為には、人が自動化を選択できる社会にすべきだと思いました。
・最終的には人と人とのつながりに帰結するという事、人対人の通信も必要かと思った。
自分が運転する上で不便に感じていたことなどがこの討論会で出てきたので、そういった小さな意見を挙げていくことが重要だなと思いました。
・クルマ離れと言われるが、クルマについてこんなに熱く語ってくれる若者がこんなに居る！こういう人達、知恵、思い を集めて、よい交通まちづくり、クルマづくりを進めねば。

ITSGS特別企画白熱討論会まとめ

市民との　「ITS実体験」　+　「討論会」

- 斬新な取り組み
- 市民のITS理解向上に貢献
- 専門家と異なる意識を持つ一般市民との議論の有効性を実感
- ITSへの期待が高く、実用化、普及拡大へ有効なヒントが得られる
- 今後も一般市民との周知、啓蒙、意見交換活動が必要
- デトロイト以降同様のイベント開催を提案したい

これからの課題

実用化を推進し、社会に貢献

ITS GREEN SAFETY

ITS GREEN SAFETY SHOWCASE
ご支援、ご協力ありがとうございました

END